

# 儲かる農業を実践する人材の育成

農業総合センター農業大学校

農業大学校では、将来、儲かる農業を実践し得る人材を育成するため、農業政策や農業現場の動きに沿った内容を取り入れた農業研修教育に取り組んでいます。有機農業については「みどりの食料システム戦略」や「茨城農業の将来ビジョン」を踏まえた教育を実施し、学生の理解を深めました。スマート農業技術については、企業や関係機関と連携してICT機器を実践的に学ばせる機会を提供し、就農後に活用できる実践的な技術に触れさせることができました。

## 有機農業を推進するための取組

国や県の施策に関する講義のほか、有機農業を実践する農業者からの講話や視察などを実施して、学生の有機農業に対する理解を深めています。さらに、関心の高い2年生には派遣実習先の情報を提供するなど具体的な支援を行った結果、2年生4名が有機野菜を栽培する県内の農業法人へ就農しました。



写真1 特別講義受講の様子



写真2 自動給水栓の使用方法を聞く学生

## スマート農業への取組（農学科）

農学科・畜産学科では、ICTなどの最新技術について、関係機関や民間企業と連携し、講義や実演会を実施しています。令和5年度は12回実演会を実施し、延べ141名の学生に最新技術を体感させることができました。また、農林水産省関東農政局那珂川沿岸農業水利事業所と協定を締結し、新たに実習用水田に自動給水栓を導入し、学生が導入機器を活用して課題解決型学習に取り組んでいます。

## スマート農業への取組（園芸学科）

園芸学科では、温度や湿度、CO2濃度等のハウス内環境を測定してデータ化する装置を実習に活用しています。学生は野菜や花きの栽培実習時に環境のモニタリングを実施しながら、作物の収量・品質向上を体感できたことで、環境制御技術や環境測定的重要性について学習することができました。



写真3 環境測定装置と実際の測定画面